

＜有識者 多治見市健康福祉部長 佐橋 政信 氏＞

県 側 県立病院の使命、役割について地元の県立病院についてどのようにお考えか伺いたいと思います。

佐橋氏 県の医療計画を踏まえて、東濃圏であって、多治見病院ということだと思いますと、東濃圏域の３次医療の中核を担ってもらうということについては、今後お願いしたいし、今も十分担っていただいていると考えております。

役割については、不採算な部分、政策的にどうしても行政としてやらなければいけない部分は、やはり公立病院として担わなければいけないと思います。その辺りは、今後地方独立行政法人化した場合も、行政がどこまで一般財源でそれを負担していくかというある程度ルール化が必要だと思うのですが、いずれにしても役割については県立病院、要するに税金を使って運営している公立病院である以上は、そういう部分は当然担っていかなければならない。具体的に言えば、救急医療もそうですし、小児医療もそうですが、そのような形は県立病院の役割だと考えています。

多治見市という特性上、非常に名古屋市に近い、電車に乗って３０分で行ける大きな病院がたくさんあるという中で、できるなら多治見病院で、患者の県外への流出を歯止めできるような医療ができればいいと思います。

実際的には名古屋市に大きな病院があるので、そこへ行かれる方も多いと思いますが、できれば県内でストップできるような役割を果たしていただけると良いと思います。多治見市民としてはそういう風に思っております。

県民は県民税を払っていますから、難病やかなり高度な技術を要する場合は別ですけど、一般的なもので、多少高度なものについては県内でやれるといいなと思います。

県 側 役割や使命に通ずることがあると思いますが、今後のあり方についてはどのようにお考えでしょうか。

佐橋氏 県立病院を中核とした病診連携と病病連携が大きな流れなので、その連携の仕方を考えていかないといけないと思います。あと、地方独立行政法人にするのか、全部適用にするかも含めてですけど、地域医療をどのように担っていくかということですね。

県立病院は３ヶ月すぎると退院しなくてはならない。そういうことも含めてフォローがなかなかできない。そこは病診連携や病病連携で対処しなければなりません、せつかく３ヶ月、県立病院で良い治療を受けたのにアフターフォローを

しないという話しも聞きますので、医療相談室がそのあとのフォローをどうするかが重要で、県立病院の信頼と責任を守るためにもフォロー体制は大事だと思います。

県 側 地域との病病連携若しくは病診連携が確立すれば、県がどういう形態でやっ
ていこうが問題は無いということによろしいでしょうか。

佐橋氏 それは基本的に、地方独立行政法人化にしても全部適用にしても機能的にはあまり変わらないと思っています。これは経営のあり方であって、財政、人事、組織に関しては、今後継続してやろうと思うのであれば、今の直営の方式というのは公立病院改革プランを見ても厳しいかなと思いますけど、機能的に県立病院の存在価値というのは、経営形態が変わろうが変わらないと思います。

ただそれを継続して県民なり市民に奉仕していくならば、経営が安定するようにはしないとだめだと思います。一番の問題は、赤字もそうですが、医師不足、看護師不足を解消するのが一番大きいです。医師、スタッフを確保できる経営のあり方が必要です。地方独立行政法人というのがそれを完全に実現できるかということですね。

あと多治見市民病院との連携を今後も充実させて欲しい。これは多治見市民病院にもお願いしなければならないことです。

県 側 もし仮に地方独立行政法人化した場合、その点の連携というのはより強くなると思いますのでその際には宜しくお願いしたいと思っております。

佐橋氏 当然地方独立行政法人も、メリットばかりでなくてデメリットもあるはずなので、そのあたりきちんと分析していただいて、デメリットが縮小されるような形にして、最終的には経営的にも黒字になって医療が継続できるというのが一番だと思います。